

学力調査結果分析報告

明日からの授業を創る



奈良県教育委員会

明日からの授業を創る

日々、教室で行われる授業は、言うまでもなく「創造的活動」です。そして、子どもたちの幸せな未来を保障する責任ある営みでもあります。私たちは、このことを肝に銘じなければなりません。本書『学力調査結果分析報告 明日からの授業を創る』には、この思いを込めています。

教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。(教育基本法第1条)

法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。(教育基本法第9条)

教育基本法には、このように、「教育の目的(第1条)」が定められ、第9条には教員として果たすべき使命が明記されています。

私たちが日々向き合っている子どもたちは様々な生活背景をもっており、学校が直面する課題も多様化、複雑化しています。ともすれば目の前の事象への対応に追われ、心身ともに疲弊してしまうこともあるかもしれません。だからこそ、私は、学校と教員に託されたこの崇高な使命について思いを致すことが大切だと思っています。

私は、「教えるプロであると同時に学び続けるプロでありたい」と言い続けてまいりました。その真髄は、責任あるこの仕事をどうすれば全うできるのかということにあります。第4次産業革命とも言われるAI(人工知能)の急速な進化は、10~20年後には、現在ある職業の約半数が、AIに置き換えられる社会をもたらすと予測されています。そのような社会にあって、自立した社会人としてたくましく生き抜いていく子どもたちの育成を、私たちは担っています。社会がグローバルかつダイナミックに変化する中で、学校教育だけが停滞することはできません。私たちは、次代を担う子どもたちに「文化」を継承するだけでなく、自ら学び続けることによって、「新たな知見」を教授するとともに、本来人間がもつ「無限の可能性」を、身をもって示す必要があります。

奈良県教育の英知を結集して、次代を担う子どもたちに最善の教育を行うことが、私たちの責務であると考えます。本書は、過去3年間の学力・学習状況調査結果を分析することを通して、現在の奈良県教育の課題と指導改善の方途を明らかにしています。

本書が、明日からの授業づくりの一助となり、ひいては奈良県教育の質の向上に繋がることを心から期待しています。

平成30年2月

奈良県教育委員会教育長
奈良県立教育研究所長

吉田育弘

目次

第一部

第1章 データで見る過去3年間の調査結果	ページ
第1節 分析の手法	5
第2節 全国調査及び奈良県調査結果の3年間の推移	
(1) 学力調査	
ア 全国調査	8
イ 奈良県調査	10
(2) 質問紙調査	
ア 全国調査	11
イ 奈良県調査	17
第3節 同一学年集団の変容	
(1) 学力調査	
ア 平成27年度奈良県調査結果と平成29年度全国調査結果の全国偏差値での比較	18
イ 平成27年度奈良県調査結果と平成29年度全国調査結果の県偏差値での比較	19
(2) 質問紙調査	
平成27年度奈良県調査と平成29年度全国調査の児童生徒質問紙調査結果の比較	21
第2章 学力調査及び質問紙調査の結果分析	
第1節 学力調査結果から見える課題	
(1) 過去3年間の全国調査結果から見える課題	23
(2) 過去3年間の奈良県調査結果から見える課題	29
(3) 平成27年度奈良県調査結果と平成29年度全国調査結果の比較から見える課題	
ア 国語の課題	34
イ 算数・数学の課題	34
第2節 児童生徒質問紙調査結果から見える課題	35
第3節 SPSSを用いた相関分析	
(1) 平成29年度全国調査	
ア 学力調査の教科間に見られる相関	37
イ 学力調査と質問紙調査との間に見られる相関	40
ウ 質問紙調査の項目間に見られる相関	42
(2) 平成29年度奈良県調査	
ア 学力調査の教科間に見られる相関	45
イ 学力調査と質問紙調査との間に見られる相関	46
ウ 質問紙調査の項目間に見られる相関	47
第3章 新しい時代に必要となる資質・能力の育成に向けて	
第1節 「生きて働く知識・技能の習得」のために	49
(1) 国語	
ア 小学校における課題	50
イ 中学校における課題	52

ウ	平成27年度奈良県調査と平成29年度全国調査に見られる課題	53
エ	授業方法、指導上の留意点	54
(2)	算数・数学	
ア	小学校における課題	56
イ	中学校における課題	59
第2節	「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」のために	64
(1)	国語	
ア	小学校における課題	64
イ	中学校における課題	66
ウ	平成27年度奈良県調査と平成29年度全国調査に見られる課題	67
エ	授業方法、指導上の留意点	67
(2)	算数・数学	
ア	小学校における課題	70
イ	中学校における課題	71
ウ	記述問題を諦めない児童生徒を育てるために	73
Q & A		74
第3節	「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等の涵養」のために ～生活習慣・学習習慣、規範意識・自尊感情の視点から～	
(1)	生活習慣・学習習慣と学力との関係	
ア	就寝・起床の時刻と学力との関係	75
イ	平日の家庭での過ごし方と学力との関係	75
ウ	学習習慣と学力との関係	77
(2)	規範意識・自尊感情と学力との関係	
ア	学校のきまり（規則）に対する意識と学力との関係	78
イ	いじめに対する意識と学力との関係	79
ウ	自尊感情と学力との関係	80
第4節	職員研修等の在り方について	
(1)	学校における職員研修の在り方	
ア	学力と職員研修体制との関係	82
イ	指導に対する「教員と児童生徒の意識の差」	84
ウ	分析結果を基にした職員研修体制の提案	86
(2)	教育研究所における取組	
	分析結果に基づく研修の充実	88
第4章	学力向上への取組（6校の取組の紹介）	90
	明日からの授業づくりを考える	103

第 二 部

「子どもたちの学びの姿から指導の改善を考えることの意味」	奈良教育大学 教授 小柳 和喜雄	105
「国語科の授業を改善するための覚え書き」	奈良教育大学 教授 棚橋 尚子	113
「明日からの算数・数学科授業を考えるー学力調査の結果にみる「批判的に考える力」を視点にー」	奈良教育大学 准教授 舟橋 友香	119

第 三 部

(各市町村教育委員会への提供資料)